

〈各班の発表〉～第6回市民会議(H22.7.3)

1班

- ・共通にできたこと～地域(の力)
「つながり」→何?
「同じ課題」～①安心・安全
②教育 たくさん使われていた
③思いやり
- 「地域」という言葉の共通認識必要なのでは?
→互いに違うことを認めることが大事
- ・世代間の垣根
// の交流
- 若者を大事にする
・・・地域のとりくみ～成り立たない
→・リーダーの不在
・地域への愛情、愛着が不足
・男性と女性が地域にいる意味?
～役割、活動の場の変化
- ・市議会の役割→もう1回市民が確認
- ・老人会～つぶれているところも～関わりたくない老人がふえた?
わがままな
- ・「思いやり」～人と人がつながること。
→良好な人間関係がないと
→条件:意見を言う場が少ない。
↓
知ろう、関わろう、理解しようという意識を
持って参加することで地域のつながりが少しずつ変わるのでは?
- ・いろんなこととに参加し、「もの言う人」になること
→自治へつながる

2班

- 「地域」・・・コミュニティ行事
～みんなが顔を合わせる
- ・コミュニティになかなか参加できない。
(理由はそれぞれ)
→自分のコミュニティの中での役割
集まりの中での分担が見出せないのでは?
- ☆お互い地域のことを知らない
コミュニケーションの場に出ない
～自然、文化、歴史も知らない
→大切にしようにも(できない)
- ◎人と人とのつながり、関わりを持っていない
→どうしたらできるのか?
・個々の地域への関心を持たせる
・人と人とのつながりを大切にする
・小さなコミュニティからつながりをもてるように
～お互いに助け合う～自然に生まれる
(ex.防災、防犯)
- 「地域を知る」
・まず、身の回りの小さな地域から見直す (大切)
～いろいろな解決策を見出す。
～大きな地域、他地域とのつながり
↓
・助け合うまち
・地域を大切にする(思い)
- ・小さなものから、見直し、育てていく
～つながり、住んでよかったと思える。
(地域のつながり、自然、文化の継承)

3班

「新城ってどんなところ?」と聞かれて答えられる
→暮らし
産業(新現、活性化)

⇒根幹「自立」
→小さな地区単位
↓
筑後との財産、予算を持って自立
・現在の集落→このままでいいのか?
(再編)

～チャレンジ精神
～失敗の許容が必要

行政と市民の間

ex.作手・・・行政から補助金の使い方のアドバイス
(以前あった)→今はまったくない
市民からの提案～行政と話合いの場をもうけるしくみあれば

追加発言

2班

小地域～市民が
行政が 何ができる?

→地域を本当に大切にする。
「このままじゃいけない」と言う人増えたら地元で買い物する人も
増える

- ・人のつながり、助け合い
～地域で子ども育てていた
→若者が住める。
信頼ある関係づくり
- ・この21名には、いろんな思いがあるのに
どうして大きな動きにならないのか?

→バラバラ
リーダー不在
仕組みがない

3班

(地場)産業→これがないと
木材～工夫している人もいるのでは?
支援の内容もりこめないか?

観光⇄情報
市民が共有すれば、

新しい産業も工夫しなければならないのでは?